

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	A-133	14-058
滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門		
題名 (原題/訳)		
Social and socio-demographic neighborhood effects on adolescent alcohol use: a systematic review of multi-level studies. 青年期飲酒に対する社会的・社会人口統計学的な周辺環境の影響：システマティック・レビュー		
執筆者		
Jackson N, Denny S, Ameratunga S		
掲載誌		
Soc Sci Med. 2014 Aug;115:10-20. doi: 10.1016/j.socscimed.2014.06.004.		
キーワード		PMID
青年期、アルコール、マルチレベル分析、周辺環境、文献調査		24937324
要 旨		
背景		
<p>青年期の飲酒に対する周辺環境の影響が注目されている。マルチレベルデザインは周辺環境による影響に加えて地域レベルの影響を検討することができるので、この調査には理想的な形である。これまでの社会環境に関する調査のほとんどは、周辺環境における酒の入手しやすさに焦点が当てられたものであった。青年期飲酒に影響を与える様々な周辺環境の要因と予防的な因子についてのマルチレベルなエビデンスについてのレビューを行った。すでに、周辺環境における酒の購入しやすさや広告については多くの研究がすでになされているのでレビューから除外した。</p>		
方法		
<p>Medline、EMBASE、CINAHL Plus、PsycINFO、Sociological Abstracts、SCOPUSに登録されている文献を系統立てて検索し、11の異なる周辺環境について検討した23件の研究を同定した。</p>		
結果		
<p>大多数の研究では居住地移動性、近隣の不穏や犯罪、職の得やすさ、地域における飲酒の寛容性、社会的資本、団結力と青年期飲酒との関連は見られなかったと報告していた。周辺環境の社会経済的な不利益については関連ありとなしに結果が分かれた。地域における成人・青年の多量飲酒は、青年期の飲酒に正の関連がある一方で、飲酒に対する法律の強化と青年期飲酒とは負の関連が見られた。調査対象とした各研究は質が低いものが多く、方法論的な限界があった。</p>		
考察		
<p>多くの研究は質に問題があり、マルチレベル研究から、青年期の飲酒を減少させるための多面的な地域ベースの政策や予防的な介入についての研究が必要であることを示唆している。さらに周辺環境の影響を検討できる個人レベルでの制御変数を含む研究デザインにすべきであろう。今後行われる研究では十分に周辺環境の影響を弁別できるように、研究デザインの段階から社会環境の影響を考慮し、個人レベルの制御変数を含んだものにすべきであろう。媒介変数と調整変数を含んだ研究デザインは周辺環境の影響の理解向上に大きく貢献するだろう。</p>		